

築山さん



京都市右京区にある、「アラキ工務店」。

そこには、「良い仕事」を続けることを誇りとする大工さんがいます。様々な経験をしてきたからこそわかる大工の在り方について二人の大工さんのインタビュを二号分に分けて紹介します。本号は、大工歴三十年の築山史典（つきやまふみのり）さんにインタビューをさせて頂きました。

黙々と仕事をするだけでなく、お客様とのコミュニケーションも必要

—— 施主さんとコミュニケーションを取る時に意識していることはありますか？
特に意識していることはありません。自分の自然体を出して話すようにしています。

—— これまで携わってきた仕事の中で、最も印象に残っている施工はなんですか？

何回も家を建ててきているが、ある家の蔵をジャキアッブしたことが印象に残っていますね。

—— 施工してお客様にどのような気持ちになってもらえると嬉しいですか？

アラキ工務店にやってもらってよかった、僕にやってもらってよかったと思ってもらえると幸せな気持ちになりますね。

「長い間住み続けられる家」を作ることが自分にとっての「良い仕事」

—— 経営指針に「良い仕事をしよう」とありますが、築山さんが考える良い仕事とは何ですか？

家は住んでなんぼなんで、長い間住んでも、ノーメンテナンスでいく程の仕事をするのが、良い仕事だと思います。

大変な仕事だからこそ少しの休息も必要。大工さんのリフレッシュ方法とは

—— 休日の過ごし方を教えてください

僕は、まだちっちゃい子がいるんで家族サービスが一番です（笑）

—— 仕事のモチベーションの上げ方を教えてください
モチベーションはいつももあるよね、そんな落ち込むことなくやっているとします。

—— 仕事のリフレッシュ方法を教えてください
毎朝リフレッシュしてますね。夕方疲れたとしても夜寝れて朝（会社）来たらリフレッシュできていて、休日も日曜日を過ごしたらリフレッシュができます。



実際に携わっているからこそわかる京町家のリアルな現状

—— 京町家の現状を教えてください
減っていく一方だと思います。

持ち主さんが必要ないといえ、解体してすぐにマンション建てたり、観光地なので、すぐに違う用途に使える場所なので、だんだんなくなっていく一方だと思います。